

議長（茅根猛君） 次，5番鈴木二郎君の発言を許します。

〔5番 鈴木二郎君登壇〕

5番（鈴木二郎君） 5番鈴木二郎でございます。ただいま議長にお許しをいただきましたので，通告順に従い質問してまいります。

まず1番目，地域産業の振興と交流人口の拡大策について。

本市における急激かつ著しい少子化，人口減少，高齢化を考えると，地域社会さらには市の将来が大変懸念される状況にあります。このような状況を打破し，改善し，明るく夢のある生き生きとしたまちづくりを推進するためには，重点的な諸改善施策戦略が必要であり，市の重点施策の1つとして現在総合的な少子化対策を推進中であります。

この施策とあわせて重要なことは，本市の誇る自然・歴史・文化・環境・景観等の観光資源をより有効的に活用するとともに，観光の新しい時代に対応した観光振興の充実を創意工夫により一層進めることではないかと思えます。

そしてさらに，基幹産業である食・農等の地域資源を活用した地域農業の振興と，商工業を含めた六次産業化を進め，全市を挙げて総合的に取り組み，市全域での交流人口の拡大と地域産業の活性化による人と地域の元気づくりと経済発展効果を生み出していくことが，今，本市に求められている大きな課題であると考えられます。

以上申し上げました地域産業の振興と交流人口の拡大施策の2点について，お伺いをいたします。

まず1点目，複合型交流拠点施設整備についてであります。

1点目といたしまして，現在計画検討を進めております複合型交流拠点につきましては，当市にとりましても初めての事業計画であり，大変大きなプロジェクトでもあることから，市民の皆さんなどから計画内容について不明な点や心配に思われている点があるように思われます。

しかしながら大切なことは，市民のだれもが内容や不明な点，課題，これらについて理解を深め市民の共通認識のもとに全員の協力支援を得て，全市を挙げてこの新規事業に取り組むことが大変重要であると考えます。このような観点から，複合型交流拠点についての計画，考え方，内容等について再確認させていただくため，8点お伺いをいたします。

1点目，複合型交流拠点施設の設置目的について，再度明確に確認いたしたくお伺いをいたします。

2つ目，当市の観光と産業，地域経済へどのような波及効果を考えて，想定しておられるのかお伺いをいたします。

3番目，地域情報発信機能及び地域の農産物や特産品等の直売，食・加工・体験機能の各施設の具体的な内容について，さらに交流人口拡大と地域産業の活性化へのコーディネート等実践についての具体的な内容について，お伺いいたします。

4番目，総事業費と将来の展望，発展性についてどのように考えておられるのか，お伺いをいたします。

5つ目，今回の複合型交流拠点の整備運営を成功させるためには，市民の皆さんを初め関係

団体の協力・支援・連携が必須と考えます。現在までの各種団体等への説明・協力依頼・連携等の経過状況及び生産・供給者への理解と協力、支援施策等の状況についてお伺いをいたします。

6 番目、売り上げの予想の収益計画について再度確認をいたします。

7 番目、JAの5つの直売所と今回の複合型交流拠点の関係について、どのように考えているのかお伺いをいたします。

8 番目、拠点の地質と造成工事の課題、対応についてどのように考えておられるのか、お伺いをいたします。

地域産業の振興と交流人口の拡大の2つ目としまして、観光振興策についてお伺いをいたします。

観光振興対策についてお伺いいたします。

茨城空港がこの3月で開港1年目を迎えます。国際線はソウル便と上海便が就航し、国内線は神戸に続き、2月からは札幌便と名古屋便が就航し、国内外からの観光やビジネスにますます便利になり、空の拠点として定着しているところであります。また、高速道路につきましては、3月19日に北関東自動車道が全面開通となることから、栃木・群馬方面からの観光客も一層増加することが期待されます。

このように茨城空港の利用促進や北関東道の全面開通を受け、県外や国外からの茨城県への来訪者がますます多くなるものと想定されます。この機会に常陸太田市へぜひ来ていただくために、新たな観光客の呼び込みによる観光振興施策戦略を策定することが必要であり、観光客を増やす絶好の機会ではないでしょうか。

この観光振興施策について2点お伺いをいたします。

1つ目、県外・国外観光客の誘客促進及び交流人口拡大に向けた施策について。平成22年11月に実施した北関東自動車道3県の県民世論調査で、回答者の35%の方が開通後はそれぞれ県外の観光施設へ積極的に出かけたいと回答しているとのことであります。この調査からも、栃木・群馬から茨城への観光客が新たに増加するものと想定されます。

このように、増加が見込める県外・国外の観光客に当市へもぜひ来ていただき、市内観光地へ集客誘致することにより、交流人口の拡大と産業振興が図れるものと思われれます。このために施策についてどのように考えておられるのか、ご所見をお伺いいたします。

2つ目、お祭り・イベントによるにぎわい・元気を継続的なものとすべき取り組み施策についてお伺いいたします。

毎年開催されるお祭りやイベントにつきましては、多くの人が集まり、にぎわい交流人口の拡大が図られております。このにぎわい・元気を一時的なものではなく、点から線へ、そしてさらに面として、さらには継続的な形で、町や地域の活性化、元気、にぎわいに結びつけていく仕掛けづくりが非常に重要であり、求められているのではないのでしょうか。

この対応について、どのように執行部は考えておられるのか、ご所見をお伺いいたします。

次に、大きな2番目でございます常陸太田市子ども科学クラブについて、お伺いをいたしま

す。

近年、青少年の理数離れが顕在化し、小中学生の学力テストにおいても満足すべき状況でないとの報告がされております。これに対応して、児童生徒に科学する心、理科に対する興味・楽しさを伝える独創性ある青少年を育成し、小中学校の理数教育を充実させることは大変重要と考えます。

この理数教育の振興に資する支援事業として、小学生に対し、より科学に好奇心と夢を持たせ、大切さを理解させて理科を好きになるように支援することを目的とし、先生や地域の科学エキスパートの協力・支援のもとに常陸太田市子ども科学クラブを開設していただき、講座を進めていただいております。

この子ども科学クラブ開設につきましては、平成21年6月に一般質問にて提案させていただき、平成22年5月に開設となりましたが、開設運営に当たって関係者のご尽力をいただき、このことに対し感謝と敬意を申し上げる次第でございます。

子ども科学クラブにつきましては、当初から多くの子どもたちが参加希望し、受講した子どもたちにとりましても好評であると伺っております。私も参加させていただきましたが、非常に楽しく生き生きと受講しておりました。

そこでこの子ども科学クラブにつきまして、2点質問させていただきたいと思っております。

1点目は子ども科学クラブの現状についてでございます。開設から現在まで応募状況、希望者、参加者、開催回数、講座内容、成果、反省、課題等についてお伺いをいたします。

2点目は、子ども科学クラブの今後のあり方についてお伺いをいたします。

子ども科学クラブは、児童生徒に対し理科に対する楽しさを伝え、興味や好奇心と夢を持たせ、理科の大切さを理解させて好きになるよう、理科教育の支援事業として講座を開設し進めているところであります。県や市としても、新年度から理科教育の充実を図るための新たな事業計画をしておられるところであります。

このような中において、児童生徒の理科教育の重要性は一層高まるものと思われまます。このような背景状況から、子ども科学クラブにつきましても、さらなる充実が必要になるものと考えられますが、今後の進め方、方針、計画等についてのご見解をお伺いいたします。

以上で、1回目の質問を終わらせていただきます。ご答弁よろしくお願いたします。

議長（茅根猛君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） 複合型交流拠点施設の整備に関してのご質問でございますが、午前中の平山議員さんのご質問にもお答えをいたしましたけれども、この施設の設置目的につきましては、今、本市の大変急激な人口減少等を踏まえての農業を取り巻きます環境の悪化といえますか、そういうことが問題となっております。生産高につきましては、今市内の農産物の生産高は年間55億円ぐらいでございます。耕地面積等の比率につきましては、ほかの市に比べてその産出額が低い現状にあるわけでございます。

そしてまた、これらの農業の現状を考えますときに、農業従事者の生産意欲をもっと高める

ということが1つ大きな課題でございます。これまでは、どちらかといいますと、それぞれの農家に対して個別補助金的な行政施策が中心でございましたけれども、ここでいいものを作ればちゃんと売れるというような、そういう成功体験を農家が自信を持つことによって、生産意欲の向上をしていきたい。そのことが1点でございますし、あわせてそういう地域への新規就農者の増にもつながるものというふうに考える次第であります。

定年帰農者の講習、今度3期目になりますが、今まで2期終わりました41人の方が講習を終わりました。うち24人が直売所等への出荷もしていただいていると、そういう現状もございます。そのようなことから、農家の所得向上ということを1つは大きな目標といたしまして、この施設を整備をしたい。

ついでには、今農商工連携ですとか、六次産業化とか、そういうこともできるような、もちろん一部ではありますけれども、加工施設等の新商品の開発などができるような、そういう施設としても整えていきたい。そういうふうに思うところであります。

今、市内に5つの直売所がございますが、そこでの野菜等の展示物の構成といいますか、地元の野菜は55%ぐらいでございます。できたらこれを高めたいと。その手だてとしましては、冬場の特に葉物野菜等の切れる時期での対策としての計画生産的なことをやっていきたい。そのためには、寒さ対策等の施設への補助というようなことも考えていく必要があるだろうというふうに思うところであります。

あわせて、この交流人口拡大をしていくためには、やはり食ということがなければお客様は来ていただけません。そんなことも考えてのレストラン・フードコート等についての整備もあわせてしたい。それから、先ほど菊池議員さんのご質問にもございましたが、交流人口を増やしていくための情報の受発信機能、これを持った施設ともしていきたい。あわせてグリーンふるさと振興機構等の解散の話も先ほどの話のとおり出ておりますので、それを市とか町が引き継ぐことという方向づけをしております。こういう中にそのことも含めて入れていきたい。そして地域の農業・産業の活性化に寄与していきたい。そのことが整備の目的でございます。

議長（茅根猛君） 副市長。

〔副市長 梅原勤君登壇〕

副市長（梅原勤君） 複合型交流拠点施設整備の2点目のご質問になりますけれども、当市の観光と産業等への寄与及び経済波及効果等についてのご質問にお答えをいたします。

まず、さまざまな地域情報の受発信機能を持たせて、観光を初めとするさまざまな地域資源、それを活用した各種体験メニューによる商品作りとさらには市民活動による各地域への観光客をいざなうための受け皿づくりを進めてまいります。

また、農林畜産農家への営農支援や農家の所得向上のための各種施策等につきまして、JAや県・市が連携しながら循環型農業の推進や農商工連携によります第六次産業化の支援、あるいは新商品開発など各種施策を一体的効率的に展開することによりまして、交流人口の拡大や地域産業の振興、地域活動の活性化への貢献が期待できるものと考えております。

また、経済波及効果につきましては、経済波及効果などがどの程度になるかを見込む、総務

省及び茨城県における農業，林業，商業，電機械などの37部門からなります産業連関表によりまして算出しますと，常陸太田市への経済波及効果といたしましては，今回お示しした損益分岐点の4億円程度の売り上げがあった場合には，直接消費することによる効果と原材料等の需要による一次効果，また一次効果から生み出される所得や雇用までによりまして二次効果をあわせまして，常陸太田市への経済波及効果は毎年約4億4,000万が見込まれるという試算をしたところでございます。

次に，各施設の具体的な内容についてでございますが，施設につきましては，大きくは2つの機能を持たせます。

1つには，常陸太田市の観光資源を初めとする地域資源やそれを生かした各種体験メニューとその商品化。そして，それらの受け皿としての市民活動への地域情報の受発信。それをコーディネートする機能を持つもの。それが，情報館であります。

もう一つが本市の特産品としての農畜産物と農商工連携によって生み出された加工品等の販売，それらを素材とした食の提供をすることにより，市内の農産物のPRや生産拡大，農業者や商業者等の所得向上を図るといった機能を持たせます。それが，直売所・レストラン・フードコート・加工所・体験工房でございます。

各施設の具体的な内容についてでございますが，初めに地域情報受発信施設であります情報館でございますが，今回の施設の中で最も重視をしている機能でございますが，各地域の個性・魅力を伝え，交流人口さらには定住人口を増やし，地域に活力と元気を生み出していくための，市民の皆さんはもとより県内・県外に向けて，本市の観光交流拠点としてはもちろん，市内各地をフィールドとした各種体験型グリーンツーリズム活動，また現在各地で展開していただいておりますエコミュージアム活動やわがまち地元学事業などの諸活動を通しまして，本市の誇りであります自然・歴史・文化・産業・食などさまざまな地域資源とそれをはぐくむ人々の情報，あるいは地域活動への支援，あるいは各地の地域資源と市民活動を組み合わせたそういうものによりまして，交流人口の拡大をしていくための商品作りをしていきます。また，その売り込みなどを実践する場とするものであります。

次に，直売所でございますが，本市を中心としました農産物・特産物・加工品・土産品等も含めました直売所でございます。あわせまして，農林畜産農家への営農支援や農家の所得向上を図るためのJAや県の改良普及センターとの連携を図りながら，低農薬や有機野菜の生産拡大，生産工程の管理，循環型農業の推進，農商工連携による六次産業化，新商品開発など各種施策を一体的効率的に展開する拠点とするものであります。

次に，レストランやフードコートでございますが，ここでは直売所等の新鮮な地元の食材を生かしまして，安全安心そしておいしいを基本とした食の提供をいたします。レストランにつきましては，野菜を中心としたメニュー構成ができるピュッフェ方式，いわゆるバイキング方式による料理の提供，またフードコートにつきましても常陸秋そばを初めとする本市の特産品を活用した軽飲食コーナーや惣菜コーナーなどを設置いたします。

さらにメニューにつきましては，市民とのワークショップ等によりまして新商品の開発や連

携協定を結んでおります大学との協力・協働による開発を進めてまいります。

次に、加工所につきましては、直売用・流通用の両方に対応した加工品の製造をしてまいります。直売所の新鮮な野菜等の有効活用、それから土産品、通販ネット販売などへの対応など、地元食材の活用や農商工連携による第六次産業化の推進のための加工所を基本内容として考えているところでございます。

次に、体験工房につきましては、地場産物を活用しまして食を中心としたワークショップや料理教室、また、これらを通した子ども、親子、主婦などを対象といたしました食育活動に取り組んでまいります。食育を基本にした地域の伝統料理や年中行事のほか、興味のわく体験メニューを生み出してまいりたいと思います。

次に、イベント広場であります。ここでは年間を通したさまざまな活力あるイベントを開催してまいります。市民や市民団体が企画実施しますイベント、それから施設独自の主催しますイベント等を通して、施設への集客はもちろんであります。市内全域の交流客の誘客を図ってまいります。

また、直売所やレストラン、フードコートの客席等の拡張用としての活用やあるいは朝市、フリーマーケット、郷土芸能、各種体験などさまざまなイベントができるように考えているところでございます。

その他、子ども広場、芝生広場等につきましては、子どもたちや親子の集える場所として親水公園のような水遊びや芝遊びができるような広場としても検討しているところでございます。

総事業費と将来の展望についてのご質問でございますが、総事業費につきましては、将来の負担をできるだけ軽減できるよう、測量や地質調査、基本設計費、実施設計費、土地取得費、造成費、建築工事費、外構工事費等を含めました総事業費を上限 13 億円といたしまして、それ以内で取り組んでまいります。

しかしながら、こうした施設につきましては、ある程度目標の達成状況を見詰めながら施設規模の拡大や生産体制、運営体制の見直し、改革を図っていく必要があると考えております。そうした意味から、敷地面積につきましては、初期の段階からそれを見込んだものとしたものでございます。

次に、各種団体等への説明、協力依頼あるいは連携、さらには生産供給者等への理解・対応についてのご質問でございます。

各種団体等への説明、協力依頼等につきましては、これまで農業団体や各種コミュニティ、小規模な団体との意見交換会等を行ってきたところであります。1月からは町会長、JAの理事会、商工会会員などへの説明会を開催し、施設の設置目的、設置場所、各施設の内容、今後のスケジュール等につきまして説明会を開催してきたところであります。

今後さらに農業者、商業者、JA関係団体、商工会関係団体、市民活動団体等との意見交換会や市民への説明会、市政懇談会などを開催しまして、より多くの方々のご理解をいただきながらこの事業への参画をお願いしてまいります。具体的には生産者等の組織化が大切でありますことから、JAや商工会などとの連携を強めながら、広く市民等への参加を呼びかけ、より

多くの方の参画がいただけるよう進めてまいります。

次に、売り上げ予想と収支計画についてのご質問でございますが、これにつきましては2月18日の議会全員協議会にお示しをしたところでございますが、入れ込み客数を年間36万人、収支計画に基づく損益分岐点を約4億円程度と見込んでおります。この数値につきましては、この間計画に当たって、当初の目標として構想したものにさまざまな選考施設の調査等を踏まえながら精査検証を行いまして、実現可能な数値として設定したところでございます。

今後とも交流人口の拡大や地域の産業振興策を推進し、次のステップとしてそれ以上の目標が掲げられ、新たな展開を推し進めまして、地域経済の活性化や市民の、あるいは地域の元気づくりを図ってまいりたいと考えております。

次に、JAの5つの直売所と交流拠点施設の関係についてでございますが、直売施設につきましてはJAみずほに運営をお願いすることで調整を進めており、既存の5つのJA直売所との人・物・情報・ノウハウ・集荷システム等の連携を図り、生産者・消費者双方のニーズにこたえてまいります。

また、今回の整備は本市の南部、市への玄関口にさせていただきます。このことは地元の皆さんはもちろんのこと、より魅力のある内容にすることによりまして、都市部など人口構成の多い特に南の地域からのお客様を増やしていくことで全体の入れ込み客数を拡大し、農業生産物等の消費、販路の拡大をあわせて展開してまいりたいと考えております。

地質と造成工事の課題対応ということでございますけれども、地質と造成工事の課題、特に地質調査につきましては、建築本体にかかるボーリング調査といたしまして建物の支持層の基礎検討及び建築確認に必要な調査を現在行っているところでございます。その調査結果につきましては、平成23年度に予定しております実施設計に反映をしていくものでございます。

また、造成に関しましては、平成23年度にまず地質の解析を行いまして、それに基づく設計を行った後、造成工事を行っていくものでございます。平成23年度の予算として今議会に提案を、計上をさせていただいたところでございます。

議長（茅根猛君） 産業部長。

〔産業部長 江幡治君登壇〕

産業部長（江幡治君） 地域産業の振興と交流人口の拡大についての中の観光振興施策についてのご質問にお答えをいたします。

初めに、茨城空港につきましては、これまでのソウル、神戸便に加えまして、2月から名古屋便と札幌便が就航しますとともに、今月末には上海便が週3回から5回へと増便になってまいります。国内外の利用者が増え続けております。

本市では昨年7月に茨城空港のロビーにおきまして、本市の観光のPR、物産品の販売を行ってまいりました。これを継続してまいりますとともに、本市の魅力や観光地としてのPRとあわせまして独自の観光メニューを作り、旅行会社への売り込みを行ってまいります。さらには、外国語表記のパンフレットを作成するなど国外からの誘客にも努めてまいりたいと考えております。

また、北関東自動車道の全線開通に伴いまして、これまでのホームページ等での情報発信をすることはもちろんであります。栃木県や群馬県の地元紙に本市の魅力ある観光情報掲載をするなど、県並びに県観光物産協会と連携を密にしまして、北関東地域からの誘客拡大に努めてまいります。

2点目の市内で行う祭り・イベントの取り組みにつきましては、来ていただくお客様に、祭り・イベントだけではなくて、市内の観光施設や観光資源に立ち寄っていただけますよう、祭り・イベントの情報の発信とあわせまして、その施設に最も適した情報を発信をしますとともに、この祭り・イベントの会場におきましても本市の魅力と旬な情報を提供することによりまして、訪れた方に祭り・イベント会場から市内各所へ回遊をしていただき、また訪れていただけるよう観光物産協会と一体となりまして、メニュー作り、細かい情報発信を行うなど、より多くの方に来ていただけるように努めてまいります。

議長（茅根猛君） 教育長。

〔教育長 中原一博君登壇〕

教育長（中原一博君） 常陸太田市子ども科学クラブのご質問にお答えいたします。

初めに、常陸太田市子ども科学クラブの現状についてでございますが、この事業は小学校の早い段階から科学の実験や体験を通して理科や科学に興味関心を持ってもらい、理科の好きな子どもを育てていくことを目的に、今年度から実施しているものでございます。

その参加対象者は小学3年生以上の児童とし、小学2年生以下は保護者同伴であれば参加できるものとして募集を行いました。定員40名のところ、それを超える158名の申し込みがありました。会場や指導者の関係から抽選により受講者を決定し、今年度は72名で5月から2月まで10回にわたって実施してまいりました。

運営に当たりましては、科学の知識を有する市民の方々に実行委員になっていただき、年間の事業計画から指導まで授業全般を行っていただいております。また、サポーターとして小中学校の理科担当の先生や退職した先生方にもご協力をいただいております。

活動の内容であります。毎月第4土曜日の午前中に生涯学習センターにおいて空気や水、力、電気など身近なことについての実験、水ロケット飛ばしなどの体験活動、つくば市のJAXAつくば宇宙センターの見学など科学に興味や関心を持つことができる活動内容で行ってまいりました。

昨年末に参加している児童やその保護者を対象にアンケート調査を行いました。その結果、参加者から学校でやらないいろいろな実験をして楽しかったとか、わからなかったことがわかって楽しかったなどという声がありました。一方活動内容をよく理解できた児童は約6割にとどまっている点もあり、特に低学年の子どもたちにとっては難しい面もあったかととらえております。今後、内容の設定や指導のあり方について検討していく必要があります。

次に、子ども科学クラブの今後のあり方についてでございますが、この子ども科学クラブに、本市のできるだけ多くの子どもたちに参加してもらい、多くの児童が理科が好きになるよう実行委員会の先生方も含めて参加対象者を初め、活動内容や指導のあり方などについて、再度点

検評価を行い、改善すべきところは改善し、本クラブの一層の充実に努めて実施してまいりたいと考えております。

議長（茅根猛君） 5番鈴木二郎君。

〔5番 鈴木二郎君登壇〕

5番（鈴木二郎君） ただいまは詳細にわたりまして目的、内容と本当にご丁寧にご説明をいただきましてよく理解をいたしました。ありがとうございました。

2回目の質問をさせていただきます。

先ほどの施設の拠点の中で、質問事項8点の中で再確認のため4点ほど再度質問させていただきます。

1つ目は、質問の2点目で拠点の常陸太田市への経済波及効果として損益分岐点の4億の売り上げがあった場合には、毎年4億4,000万の効果が見込まれるということですが、これは売り上げに比例して経済波及効果は大きくなると理解してよろしいのか、確認のためにお伺いをいたします。

2つ目は、質問の3点目で直売所初め、いろんな機能を有する施設を計画しておりますが、多くのお客さんに来ていただきリピーターとなっていただくためには、そのための大切なことはやはり拠点の特徴、すなわちセールスポイント、これの確保にあると思っておりますが、この点についてどのような施策を考えておられるのか、お伺いをいたします。

3つ目は、質問の5点目で各種団体への説明、協力依頼等を鋭意進めているということで理解いたしましたが、1点お伺いをいたします。その野菜等の物の確保を1年、すなわち1年間通して、四季を通して安定して確保することは、非常に重要であり、生産者・供給者の協力及び育成支援がポイントになるかと思っております。

要するに、夏の間は野菜等は非常にどこでも作りまして自然とできるということですが、冬のシーズンになりまして野菜が何も販売所に、直売所に上がってこないというようなことじゃ困りますので、この点の対応についてどのように考えているのか、お考えをお聞きしたいと思います。

4つ目は、質問の7点目のJAの5つの直売所と拠点の関係でございますが、人・物・情報・集荷等についてはJAのみずほにて既存の直売所等の連携を図っていくということで理解いたしました。再度確認したい点は、売り上げや集客において、今回計画の交流拠点と既存の5つの直売所との競合や取り合いにならないのか。すなわち、5直売所の売り上げや収益等に影響が出ないかとの確認であります。

1回目の答弁の中で、都市部など人口の多い南の地域からお客様を増やし、全体の入れ込み客数を拡大するというところでございますが、すなわちこれは従来のお客さんにプラスアルファの確保で全体のパイを増やすことによって既直売所への影響はないと理解してよいのか、確認のためにお伺いいたします。

それから、2番目の観光振興施策、その1つ目の県外・国外からの誘客促進、交流人口拡大策についてでございますが、1点目の茨城空港の開港、そして北関東自動車道の全面開通によ

る誘客拡大促進施策につきましては、先ほどのPR活動、旅行会社への売り込み等によって促進を図っていくということで理解をいたしました。

要望といたしましては、新たな客の確保を図り開拓する観点から、非常にこれ大きな機会でございますので、より効果的な誘客促進のために、常陸太田市のみでなく近隣市町村との広域連携による一度に複数の観光地をめぐる周遊型の観光コース、こういうものを設定し広域観光を展開することや、周遊のための道路網や交通網の整備、あるいはJR水郡線の駅の整備や利便性の改善、歴史・グルメツアーとこれらの企画とか、あるいはまた外国語の看板、こういうものも将来は検討していただければよろしいかなというふうなことで要望をいたします。

それから、2つ目の祭り・イベントによるにぎわい・元気、これを継続的なものとするという施策につきましては、先ほどのご答弁で考え方・施策を理解いたしました。これも要望事項といたしまして、やはりお祭りやイベント、観光地をめぐること、企画と情報発信を行うとともに、今回計画中の複合型交流拠点を有機的に結びつけた形でにぎわいや元気を継続できるよう検討し、展開されるように要望をいたします。

それから、大きな2番目の常陸太田市子ども科学クラブについてでございますが、これは先ほどのご答弁で理解をいたしました。非常に成果もあるということでございますので、より充実した計画をお願いしたいというふうに思います。

そこで2点ほど要望をしたいと思います。

1点目は、今後の計画の中でやはり理科教育は重要であるということから、ひとつ中学生も対象に含めて検討をしていただきたいというふうに要望をいたします。

それから2点目は、現在の小学生対象の科学クラブは、先ほど答弁がありましたように応募者が150名近くのところ、講師等の関係で70名で実施しているというようなことでございます。やはり子どもの希望にできるだけ対応できるよう教室の問題、講師の問題等もありますが、より一層の充実を図っていただくように要望をお願いいたします。

以上、質問と要望を申し上げ2回目の質問を終わります。質問に対するご答弁をよろしくお願いいたします。

議長（茅根猛君） 答弁を求めます。副市長。

〔副市長 梅原勤君登壇〕

副市長（梅原勤君） 波及効果が売りに上げて応じてどのように変化するかということでございますけれども、議員のお見込みのとおりでございます。経済波及効果につきましては売りが大きくなるに比例しまして経済効果も高くなるものでございます。

2点目のいわゆる拠点の特徴といたしましうか、セールスポイントということでございますけれども、このことにつきましては、最大の特徴はやはり複合型の交流施設ということでございます。単なる道の駅という概念ではなくて、地域の情報受発信機能とともに地域の農産物や特産物の直売、それから加工、体験機能などをあわせ持ちます複合型交流拠点施設ということでございます。

また、市の玄関口であります、阿武隈山脈と田園風景が織りなすのどかな風景が見える土地

でございます。そうしたところに広く入りやすい駐車場を備えた施設ということになってまいります。これらを生かした特色あるデザインを持った施設とすることで、魅力を高めてまいりたいというふうに考えております。

それから生産供給者の協力ということでございます。農産物を四季を通して安定して供給できるようにするためには、何といたしまして農産物の生産拡大といたしまししょうか、計画生産が大切になってまいります。そのための生産者の組織化を図っていく必要があります。JAそれから県農林事務所等との連携を密にしてそうした生産工程や循環型農業の推進、あるいは農商工連携等による六次産業化等々の技術的な支援を推進しますとともに、関係者の協力をいただけるような、また生産者の育成を図っていくような、そうした事業を展開してまいりたいというふうに思います。

直売所への影響はないと理解してよいのかということでございますが、初期の段階では消費者の動きが流動的になり、影響が出る可能性があると考えられますが、これまで調査してきましたさまざまな同様の施設でそうでありましたように、本施設においても相乗効果が生まれると見込んでおります。さまざまなところで同様な施設が近隣でも設置されていくというような状況がたくさん見られておるところでございます。

また、議員ご理解のとおりでございますして、新たな消費者・来客を増やすこと、何よりも大切であると考えております。経営の柱として取り組んでまいります。

議長（茅根猛君） 5番鈴木二郎君。

〔5番 鈴木二郎君登壇〕

5番（鈴木二郎君） ただいまは2回目の質問に対し、ご答弁いただきありがとうございます。

複合型拠点施設整備につきましては、全般にわたり理解をいたしました。

ここで私の要望を申し上げ、私の一般質問を終わらせていただきます。

今回の検討中の複合型交流拠点の整備事業につきましては、やはり本市にとっては少子高齢化、人口減少、限界集落の散見等を考えるとき、これからの常陸太田の将来のために、やはり鋭意取り組む必要があるだろうというふうに考えておるところでございます。

この複合型交流拠点の施設の整備は、当市にとりましては初めての事業計画であり、大変大きなプロジェクトでもあることから心配な点や不明な点、リスク等はあると思います。しかしながら、初めての事業に不確定要素や心配はつきものと考えられます。大切なことは市民の誰もが内容や不明な点、課題・リスク等について十分な理解を深め、対応策・改善策を検討し、あるべき最適化を求め、課題やリスクを可能な限り最小にして、市民の皆さんの共通認識のもとに全員の協力支援を得て、全市を挙げてこの新規事業に取り組むことじゃないでしょうか。常陸太田市の将来のために十分なる検討を行い、進めていただきたいと思うものでございます。

今回の複合型交流拠点施設は、単なる農産物の直売による収益を確保するだけのものでなく、農業の振興と交流人口の拡大による地域のにぎわい、活性化を目的としておるところでありまして、常陸太田市の将来のためにも必要な施設と考えます。このため、執行部といたしまして

もぜひ拠点施設の确实性・信頼性を高め、市民初め拠点整備運営関係者に理解と支援をいただき、市民総ぐるみで取り組んでいただけるよう全力で頑張ってくださいますようお願いを申し上げ、私の質問を終わります。ありがとうございました。